opusdei.org

属人区長の書簡 〔2016年1月〕

2016年最初の手紙で、オプス・デイ属人区長は、聖マリアについて、また良心の糾明を行うことの大切さ、そして教会で引き続くいつくしみの特別聖年について語る。

2016/01/11

愛する皆さん、イエスが私の子ども たちをお守りくださいますように!

今日のごミサの入祭唱「Salve, sancta Parens…; しあわせな方、聖

マリア、代々、天地を支配する王が あなたからお生まれになった| [1] を唱えて大きな喜びに浸ります。マ リアが神の母であると信じることは 至上の幸せをもたらします。三位一 体の神が聖母にお与えになった他の 特権はこのことに由来しているので す。神が聖母を無原罪の状態で創造 し、恩恵で満たされたのは、神の御 子をお宿しになるのにふさわしい清 い者にするためでもありました [2]。何と素晴らしいことでしょ う! 正に私たちは、母なる神の御母 に「あなたに優るお方はただ神の み」[3]と申し上げることができる のです。

431年、公会議でこの信条が決定されたときのエフェソの信者たちの熱狂ぶりが目に浮かびます。「史実によれば、この明白で疑う余地のない決定を聞いたとき、信者はよろこびにわきました。信者すべてが信じていた事柄を再確認したにすぎなかっ

たにもかかわらず| [4]。聖ホセマ リアはある説教で、公会議で重要な 役目を果たしたアレキサンドリアの 聖キリルスの文章を引用してそのこ とを思い起こしています。「エフェ ソの町全体は早朝から夜まで公会議 の結果を今か今かと待ちわびていま した。冒涜(ぼうとく)の張本人が罷 免されたと知ると、全市民は声を一 つにして神を替美し公会議を称え始 めた。信仰の敵が倒されたからであ る。教会を出るやいなや、松明をか かげた群衆が我々を取り囲み家まで 送ってくれた。すでに夜であった が、喜びにあふれた町全体は明々と 照らし出されていた| [5]。創立者 のコメントです。「聖キリルスはこ う書いています。16世紀を隔てた今 も、あの人々の敬虔なおこないに深 く心を打たれずにはおれません| [6]。

1971年にロレットに行った時のことを未だに良く覚えています。お告げ

のあった家は鍵がかかっていていていていていていません。聖ホセマリアは、閉上、りまた鉄柵につかまって「母上のでもないました。そこでそちってもからです。今年では、少々気分を悪いで、皆、少々気分を悪するのでは、からはいで、ではなくが、天の御母に感謝するのでは、なくが、大の御母に感謝するのでは、なくが、大の御母に感謝するのでは、ないました。

神の母! この真理の宣言に喜びあふれ、昔のエフェソの信者たちも声を限りに叫んでいたのです。今私たちは同じことを信じています。Salve, sancta Parens…, しあわせな方、神の御母…、と。今に伝わっている聖母信心の最初の祈りは、三世紀のエジプトで信者たちが聖母に嘆願するときに使っていたものです。subtuum præsídium confúgimus, Sancta Dei Génetrix…; 「天主の聖母によりすがり奉る。いと尊く祝せら

れ給う童貞、必要なる時に呼ばわるを軽んじ給わず、かえってすべての危うきより、常にわれらを救い給え」[7]。聖ホセマリアが聖マリアのご保護を確信して日毎唱えていた祈りです。

「これと同じ信仰が私たちの心にも 燃え上がり、感謝の歌が心からほと ばしり出るのを、主なる神はお望み です。三位一体の神は、私たちと同 じ人間キリストの母としてマリアを お選びになったそのときに、私たち 一人ひとりを御母のマントの庇護の 下に置いてくださったからです」 [8]。

今日のミサの第一朗読では、旧約の 民を祝福するようにとモーゼに仰せ になった、神ご自身のみことばが読 まれました。「主がおまえを祝し守 りたもうように。主がおまえにかが やく面を向け、慈しみを示したもう ように。主がおまえに面を向け、平 和を与えたもうように」[9]。この祝福は聖母において完全に実現されました。それを教皇様がある説教で説明しておられます。「マリアのように神のみ顔をわが身に輝かせた人はいません。マリアは、永遠のみことばに人間の顔を与えました。それは皆が神を眺めることができるようにするためだったのです」[10]。

この言葉は、聖年開始直後に始まっ た新年の計画を立てるのに役立つで しょう。私たちが、Salve で唱えて いるように Mater misericórdiæ, あ われみ深い御母の聖なる庇護の下に これからの日々を過ごすようにとの 勧めなのです。聖母は、神の御独り 子を胎内にお迎えしたので誰よりも ふんだんに神のあわれみを受け、そ してあふれんばかりのこの神の愛に 「私は主のはしためです。お言葉ど おり、この身に成りますように|「1 1]ともっともよく応えた方です。

この答え、ancilla Dómini, は、聖母 の自由で全面的な委託の心構えを表 明しています。神のみことばを謙遜 に素直に受け入れ、贖いのみわざに 協力されます。聖母は、汚れない母親 として人類の抱える重荷を絶えず気 遣い、聖ガブリエルが伝えた神から のメッセージ、「あなたは身ごもっ て男の子を産むが、その子をイエス と名付けなさい。その子は偉大な人 となり、いと高き方の子と言われ る。神である主は、彼に父ダビデの 王座をくださる。彼は永遠にヤコブ の家を治め、その支配は終わること がない」[12]について思いめぐら しておられました。

人類と教会には、心配事が絶えません。Mater Ecclésiæ! キリストの神秘体である御母、つまりそれは教会です。聖霊降臨の日を待っていた生まれたばかりの教会は、マリアと共に祈ることでペトロと他の使徒たちとの本質的な一致を実現しました[1

3]。聖母は、母親としての執り成しで、キリストの花嫁である教会、そしてその成員、キリストの肢体である一人ひとりを、気遣われたし、今もいつもそうです。この一致のためのお祈りを倍加させましょう。特に、日々、ペトロの後継者と他の使徒たちの後継者たちとの一致のために祈ることです。

マリア信心は、人となられたみこと ば、つまりキリストに輝きでている 父なる神の、いつくしみ深いみ顔を 見出すための最良の道です。何より も、神のいつくしみに心を開くこと が大事です。これはいつも不可欠な ことですが、現代には殊のほかそれ が必要です。「変化の激しい現代、 教会は神が近くにおられることを、 態度ではっきりと示すようにと招か れています。聖年は私たちにとっ て、人間のあらゆる限界をしのぎ、 罪の暗闇を照らす、慈しみ深い神を 仰ぎつつ、より確かで効果的な証し

人になるための素晴らしいチャンスです」[14]。

そのうえ、この時期には、向こう一 年の目標を立てる足掛かりにするた め、過ぎた一年をしっかり振り返っ てみることが理に適っています。こ れを超自然的な面に当てはめると、 イエス・キリストと一致する聖なる 望みを新たにする熱意を持って、こ の一年を始めることです。そのため の最良の手立ては聖母に馳せよるこ とです。「常に、イエスのもとへ行 くときはマリアを通り、イエスのも とへ戻るときもマリアを通る | [1] 5]。聖母はいつでも御子に導いてく ださいます。カナの婚宴で召使いた ちに「この人が何か言いつけたら、 その通りにしてください | [16]と 言われたように。それと同時に、福 音書のイエスのみ顔を眺めると、あ の婦人の愛情のこもった「なんと幸 いなことでしょう。あなたを宿した

胎、あなたが吸った乳房は[17]と言う賛辞が自ずと口に上ります。

また新年はよく白紙の本にたとえられます。それは一人ひとりが自分の歩みで埋めていかなければならないものです。福者アルバロは、1980年の今日、言われました。「神の数知の心を表すこと。つまり良い決し、それを果たすために戦うこと。し、それを果たすために戦うこと。こうでイは広まり続けるのです」[1] 8]。

新年の目標として皆さんに提案します。ドン・アルバロが勧めていたことです。「今日開かれる白紙のここ本を、美しく優雅な文体で埋めること。中世の人が、羊皮紙に細心のこきを払って繊細で美しい文字を書き、絵柄を描いたように。シミがいた本性を持っており、惨めさだらけ

ですから — それを認め、取り去る 勇気を失わないことです。どのよう にして消しましょうか。謙遜である こと、そしてゆるしの秘跡に与るこ とによって」[19]。

過ちを改善する手立てを探すことは 愛の行為です。ですから、必要不可 欠な手段である良心の糾明を活用し なければなりません。聖ホセマリア が書いているように、良心の糾明は 「もし先の人間が実行していなかっ たとしても、初代信者が作り上げた のです。Probet autem seipsum homo (Iコリント11.28) 自分をよく 確かめなさい、と使徒がコリントの 信者に言っています。異教徒でも誠 実な人は心を調べていました。テベ レ川のほとりの焼き栗屋さんも一日 の終わりにはその日の収益と働いた 時間を計算するはずです(…)。いつ も全ての人が、神に関して、あるい はこの世の事柄に関して調べ判断を くだしました」[20]。

また、日々、神の光のもとで糾明す ることを疎かにしないよう勧めま す。聖ホセマリアが言っていたよう に、それは就寝前の2.3分で事足りま すが、毎日続けることです。確か に、ある時には、たとえば、ゆるし の秘跡の前や黙想の日、特別な記念 日などには、時間をかけて詳しく見 るのが相応しいことです。いずれに しても、いつも聖霊に光を願い、痛 悔し、翌日のため具体的な決心がで きるよう助けて頂くことが大切で す。こうして、私たちは振る舞いを 糺し、痛悔によって、人生という本 に付けてしまったシミを消し去るこ とができます。

このお祝いの日々に、また一年を通じて「自分の内面に戻り、自分の生活を正直に吟味することが大切です。わたしたちがベツレヘムから発する光に、すなわち、〈偉大〉でありながら小さくなり、〈力ある〉者でありながら無力になったかたの光

に照らしていただくことができますように[21]。

多くの人がゆるしの秘跡に与って、このいつくしみの聖年の恩恵を頂くことができるよう神にお願いしましょう。2,3週間前に教皇様がこの秘跡に触れておられます。「聖年の重要なしるしはゆるしの秘跡でもあります。神と和解しているわたしたもがこの秘跡に与ると、神のいつくしれるの秘跡に与ると、神のいつくしなります」[2]。

私の諸々の意向のためにお祈りくだります。それは、教会、教皇様とそべいない。それは、教皇はまずれる。それは、教皇はないです。というではないです。というではないです。ないないではないではないではないではないではないではないであられることの意びを新たに見いだいである。

せますように」[23] 聖母にお願い しましょう。聖母が、人々の心に、 家族の中に、国々に、御子イエスが 世界中に蒔れたいつくしみ深いすり 種を芽生えさせてくださいますリア に。また、長い間、聖ホセマリア に。また、長い間、聖ホセマリテ いたな思いで繰り返していた章句 新たな思いで繰り返していた章句 にのお母さま!」を思い起 こしましょう。

心からの愛を込めて祝福を送り、神の愛のわざと使徒職の実り豊かな2016年であるよう祈ります。

皆さんのパドレ

ハビエル

ローマ、2016年1月1日

- [1] ローマミサ典書、神の御母聖マ リアの祭日の入祭唱。
- [2] アキノの聖トマス、聖ヨハネ福音書の注釈、第一章の10節。
- [3] 聖ホセマリア、『道』496番。
- [4] 聖ホセマリア、『神の朋友』275番。
- [5] アレキサンドリアの聖キリルス、24(PG77, 138)。
- [6] 聖ホセマリア、『神の朋友』番。
- [7] (邦訳)終業の祈り(1982年カトリック中央協議会編集の「公教会祈祷文」21ページ)。
- [8] 聖ホセマリア、『神の朋友』275番。
- [9] ローマミサ典書、神の母の祭日 の第一朗読 (民数記6,24-26)。

- [10] 教皇フランシスコ、2015年1 月1日神の母の祭日の説教。
- [11]ルカ1,38。
- [12]同上、31-33。
- [13] 使徒言行録 1,14; 2,1-4参照。
- [14] 教皇フランシスコ、2015年12 月9日一般謁見の講話。
- <u>[15]</u> 聖ホセマリア、『道』495 番。
- [16] ヨハネ 2,5。
- [17]ルカ11,27。
- [18] 福者アルバロ、1980年1月1日 家族の集まりのメモ。
- [19]同上。
- [20] 聖ホセマリア、1957年9月29 日手紙71番。

[21] ベネディクト16世、2011年12 月4日お告げの祈りでの言葉。

[22] 教皇フランシスコ、2015年12 月16日一般謁見の講話。

[23] 教皇フランシスコ、2015年4月11日大勅書『イエス・キリスト、 父のいつくしみのみ顔』24番。

写真: ebayink (Creative Commons)

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkucho-no-tegami-2016-1/(2025/12/16)